

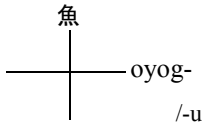
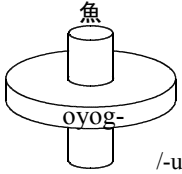
S1.2 基本構造

「動詞/～だ/形容詞」の基本構造

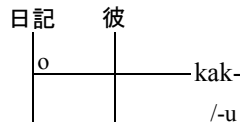
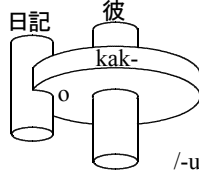
5章, 7章, 8章, 11章

動詞の基本構造

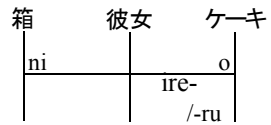
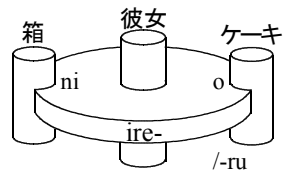
コラム3(p.72)参照



図S1-6 魚-ga oyog-u



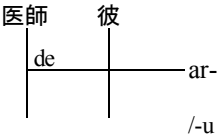
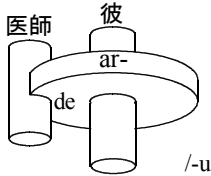
図S1-7 彼-ga 日記-o kak-u



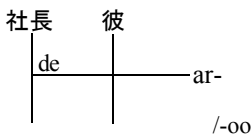
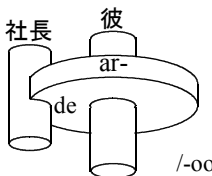
図S1-8 箱-ni ケーキ-o ire-ru

「～である/～だ」の構造

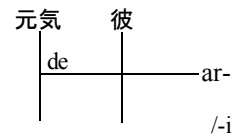
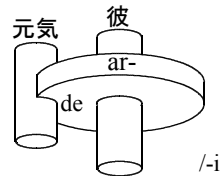
同じ構造でも、省略した読み方があります。



図S1-9 彼-ga 医師-d(e) a(r-u)
(医師である/だ)



図S1-10 社長-d(e) ar-oo
(社長であろう/だろう)



図S1-11 元気-de (ar-i)
(元気であり/で)

描写詞

構造を読むときに属性に加える -i, -u, -ooなどを描写詞といいます。

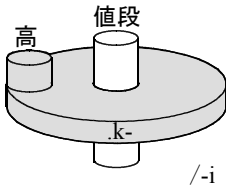
「彼は医師で(あり), 」の「で」の扱い方 / 「だ」とは何?

表層での考え方……「で」は助動詞「だ」の連用形。(国語文法)

深層での考え方……「で」は(存在様態を表す)格詞。

「だ」は -de ar-u の構造を短縮して語にしたもの。(-(d)e=a(r-u) 格=動詞)

形容詞の基本構造



形容詞「高い」は taka.k-i という構造をしています。

- ・現代語では -i が続くときは k は発音されません。

taka.k-i たかい

- ・u, a, e が続くときは k は発音されます。

taka.k-u たかく

taka.k-Ø=ar-i=t-Ø=a-Ø たかかった

taka.k-ereba たかければ

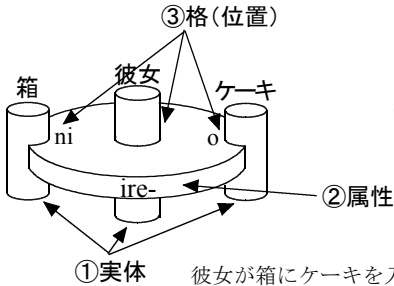
- ・-u ございます」が続くときは k は発音されません。

taka.k-u ございます (たかう ございます)

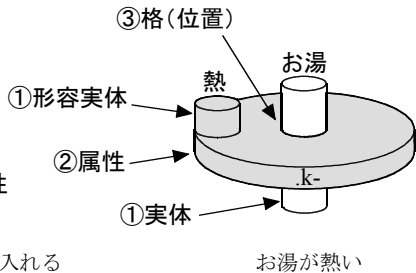
たこう ございます

図S1-12 値段-ga 高.k-i

- ①名詞を「実体」といいます。「形容実体」もあります。 ②動詞と形容詞を「属性」といいます。 ③実体と属性を結びつける「関係」を「格」といい、位置で表します。

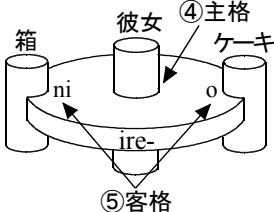


図S1-13 (動)属性と実体と格

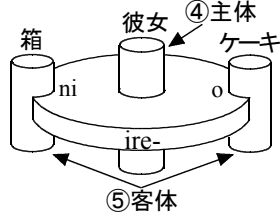


図S1-14 (形容)属性と実体と格

- ④中央にある格を「主格」といい、そこに立つ実体を「主体」といいます。
⑤周辺にある格を「客格」といい、そこに立つ実体を「客体」といいます。



図S1-15 格：主格と客格



図S1-16 実体：主体と客体